

明石洋子氏は、約30年前に自身の長男が知的障がいを伴う自閉症と診断され、地域における自閉症支援体制の充実に注力するようになった。同じような障がいの子をもつ親たちと共に、保健所の一室を借りた「地域訓練会」を自主的に創設したのをはじめとして、「必要なサービスがなければ、自分で作る」をコンセプトにボランティア活動に本格的に携わる。

1989年に地域作業所「あおぞらハウス」を開設。続いて、運営支援・就労支援を目的とするボランティアグループ「あおぞら共生会」を設立。1991年には就労以外に地域社会での自立を目的に、生活自体も地域でサポートできるよう「グループホームあおぞら」を設立する。その後も、サポートセンターを開設するなど多岐に亘り活動を行っている。また少しでも自閉症という障がいに対しての理解を深めてもらおうと、自身の体験をまとめた著書の執筆や、無料のニュースレターを制作し、地域や教育の現場での配布に取り組んでいる。



■著書「ありのままの子育て」、「自立への子育て」、「お仕事がんばります」

## ボランティア部門

# 必要なサービスがなければ自分で作る



あかし ようこ  
**明石 洋子** 社会福祉法人あおぞら共生会 副理事長

「地域の中で共に」をモットーに、地域で障がいのある子どもを理解してもらい、子育て、自立が出来るようにと、自らボランティアグループ「あおぞら共生会」を設立。さまざまな取り組みや経験を活かし、障がい者のための作業所、グループホーム、サポートセンターを開設、地域支援体制を構築した。2005年より日本自閉症協会川崎市支部長を務める。

推薦者 **福島 豊** 衆議院議員



長男の徹之さんとグループホーム「あおぞら」のメンバーにて

現在、こうした長年に亘った取り組みの結果、日中の活動拠点として「地域活動支援センターぞうさん」、「あおぞらハウス」、また、暮らしの場として「ケアホーム・グループホームあおぞら」他3ヶ所、さらに生活支援ホームヘルプ派遣事業などを行う「サポートセンターあおぞら」の街を運営し、総合的な支援体制の構築に至っている。

明石氏が、「必要なサービスがなければ自分で作ろう」という主体的な姿勢で、心のバリアフリーとノーマライゼーション実現のため、管理薬剤師としての多忙な勤務の傍ら、市民活動に取り組んでこられた功績は大変大きい。



■地域活動支援センター「ぞうさん」



■ニュースレター「くさぶえ」